

2004年8月2日

石川県知事
谷本正憲様

兼六園と辰巳用水を守り、
ダム建設を阻止する会
事務局長 碇山 洋
ナギの会
代表 渡辺 寛

鞍月用水堰・雪見橋区間をはじめとする
犀川の危険箇所の改修と緊急補修に関する申し入れ

新潟・福井の豪雨では、堤防決壊などによる水害で甚大な被害が発生しました。

いま河川整備計画策定に向けて流域委員会や川つくり懇談会が開かれている犀川にも、県作成の『水防計画書』で「A」にランクづけされている危険箇所がたくさんあります。とくに、私たちが7月25日に開催した「犀川 A ランク危険箇所現地視察会」で視察した鞍月用水堰から雪見橋付近の堤防は、県の計画の辰巳ダム完成後の想定水位より左岸側で1メートル、右岸側で2メートルも低いうえ、規格の堤頂幅4mにもほど遠く、コンクリートが剥がれたまま放置されているなど、きわめて危険な状態です。そもそも、鞍月用水堰地点の現在の流下能力は毎秒500立方メートル(2003年10月1日、福本土木部長の県議会答弁)にすぎず、河川整備基本方針策定の過程で県が示した計画高水毎秒1,230立方メートルの半分にも及ばない状況です。県は犀川大橋地点を基準点に計画高水を毎秒1,230立方メートルとしていますが、現況では、毎秒1,230立方メートルの水は大橋地点に到達する前に鞍月用水堰のところで毎秒730立方メートルも溢れ、城南1丁目はもちろん、香林坊はじめ金沢の中心部が大水害に見舞われることになります。

鞍月用水堰・雪見橋区間がきわめて危険な状態にあることを、私たちは県に対して昨年来指摘してきましたが、1年経過時点の「現地視察会」でも、いまだ何らの対策もとられておらず、右岸側の堤防はさらに劣化が進行していることが確認されました。

新潟・福井でも、パイピング現象が起こったり、周辺より低いまま放置されていた地点で溢水破堤が起こったり、堤防の欠陥が大きな被害をもたらしたことが指摘されています。新潟・福井並みの豪雨はいうに及ばず、県の計画で対応できるはずの洪水量でさえ大水害

が起こるような現状を放置することは、決して許されることではありません。

私たちは犀川の河川整備基本方針や河川整備計画について多くの意見をもっていますが、鞍月用水堰・雪見橋区間をはじめとする危険箇所については、整備計画の問題といつたん切り離して、早急の改修と緊急の補修が必要です。

私たちは、知事に対して、下記の4点についてただちに取り組まれるよう、つよく求めます。

整備計画策定作業とは別にこれらを実現することは、知事の判断によって可能ですし、この判断は知事にしかできないことです。かりに問題を先送りして鞍月用水堰・雪見橋区間などで溢水・決壊が起こった場合、その責任はすべて谷本正憲知事が負わねばならないということを指摘しておきます。

知事の英断を期待します。

記

(1) 鞍月用水堰地点やJR鉄橋地点をはじめ、犀川の現在の河道断面、流下能力や護岸などの状況を、実際の測量などにより緊急に総点検しなおし、その情報を県民に公開すること。

(2) 犀川でもっとも危険な状態にある鞍月用水堰・雪見橋区間について、堤防を増強したり、左岸の犀川緑地を遊水池として利用するなど、早急に抜本的な改修を行うこと。

(3) 上記(2)に先だって、コンクリートがひび割れたり剥がれたりしている堤防について、コンクリートを塗り直すなど、応急措置として緊急の補修を行うこと。

(4) 改修・補修を急ぎながら、住民に危険箇所を知らせるとともに、連絡網の確立や避難場所の確保、防災訓練の実施など、万が一に備えたソフト面の対策を至急講じること。